

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果報告 小学校

令和7年度全国学力・学習状況調査の実施概要

1 調査日

令和7年4月14日（月）～17日（木）

2 調査集計対象

小学校第6学年児童

3 市内実施校数（市立）

小学校10校

4 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

- 全国的な児童の学力や学習状況を把握・分析することによって、国や全ての教育委員会における教育施策の成果と課題を分析し、その改善を図る
- 学校における個々の児童への教育指導や学習状況の改善・充実等に役立てる
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

5 調査内容

① 教科に関する調査

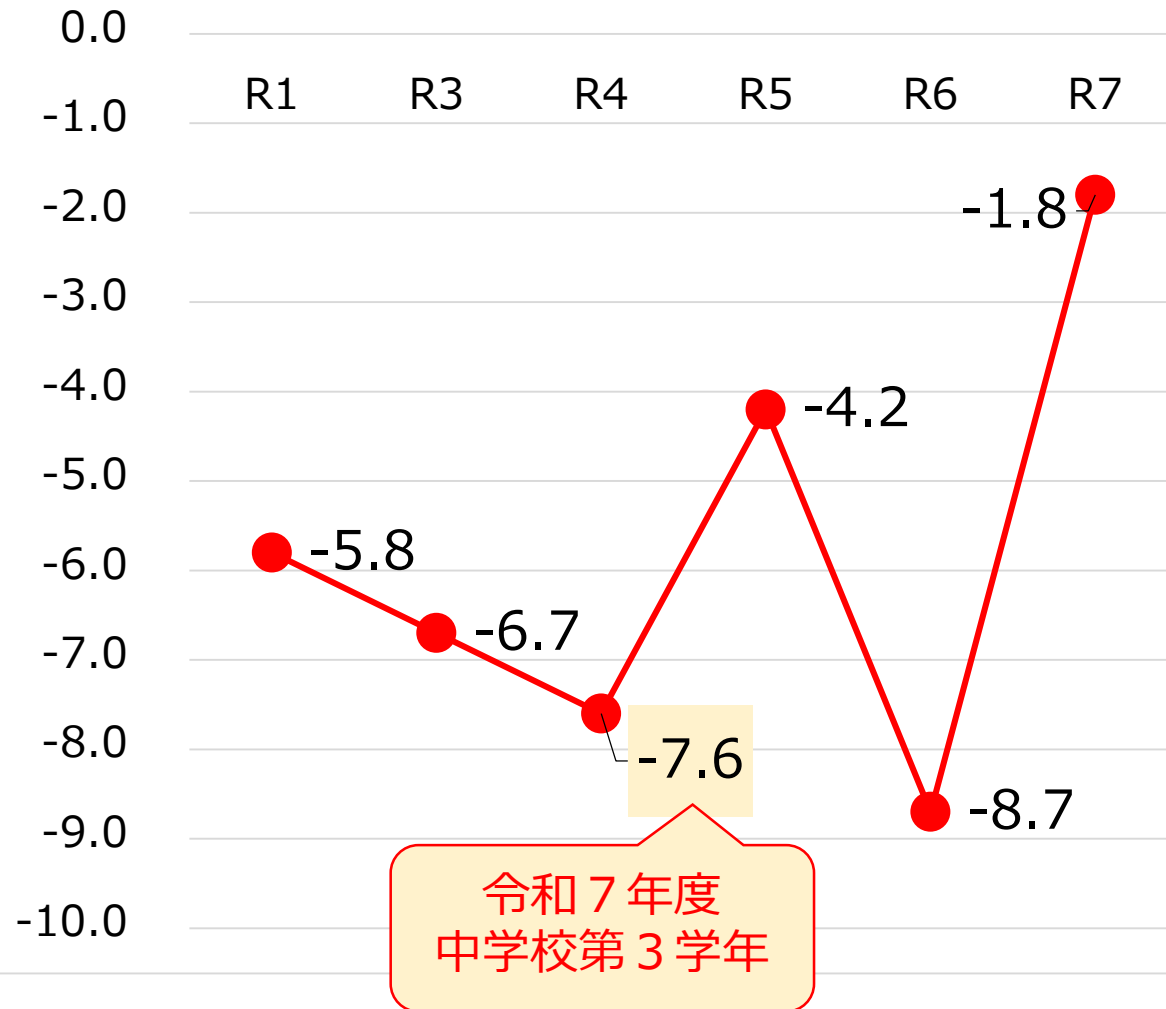
- 国語、算数、理科

② 質問紙調査

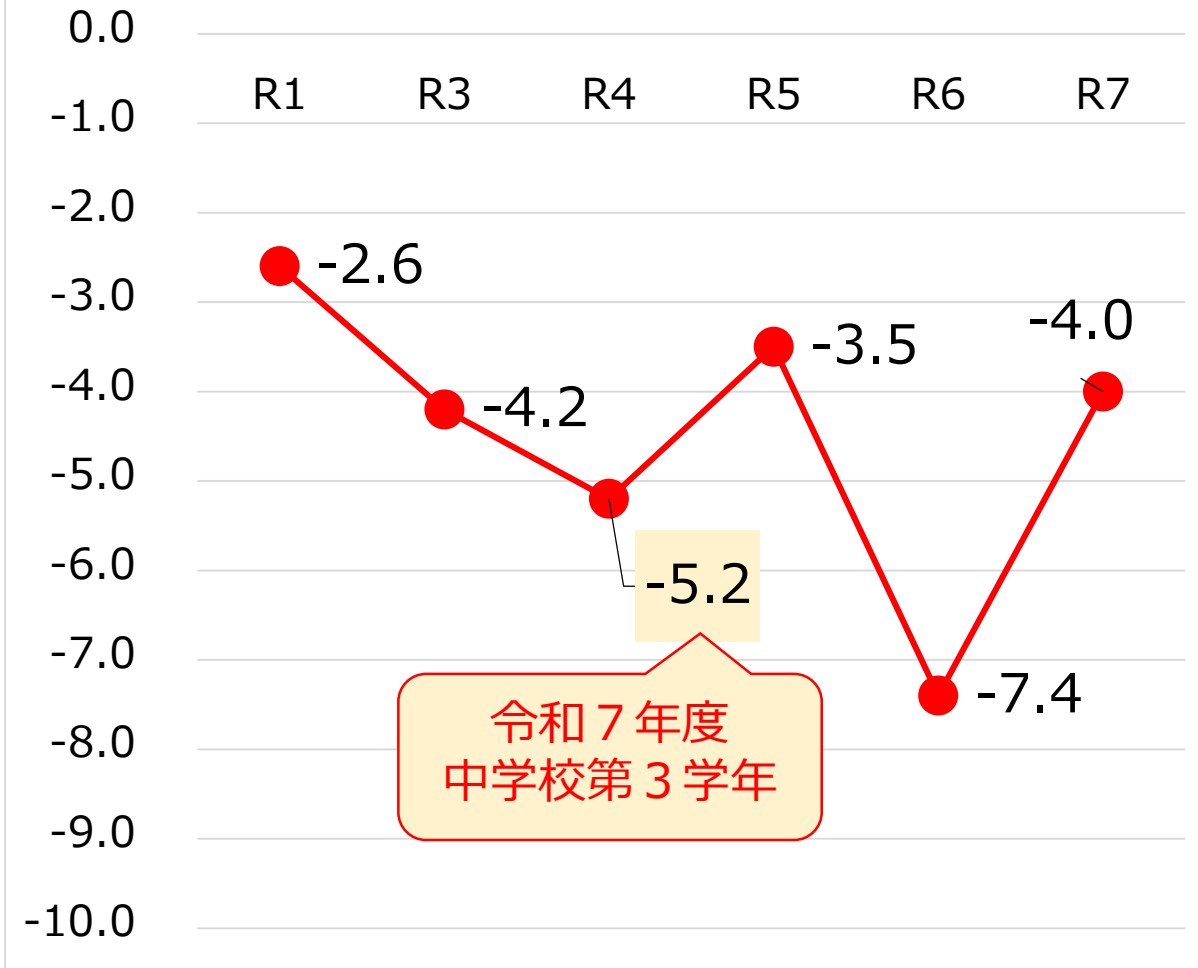
- 児童質問紙調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査）
- 学校質問紙調査（指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況に関する調査）

全国（公立）平均正答率との差の推移

小学校 国語

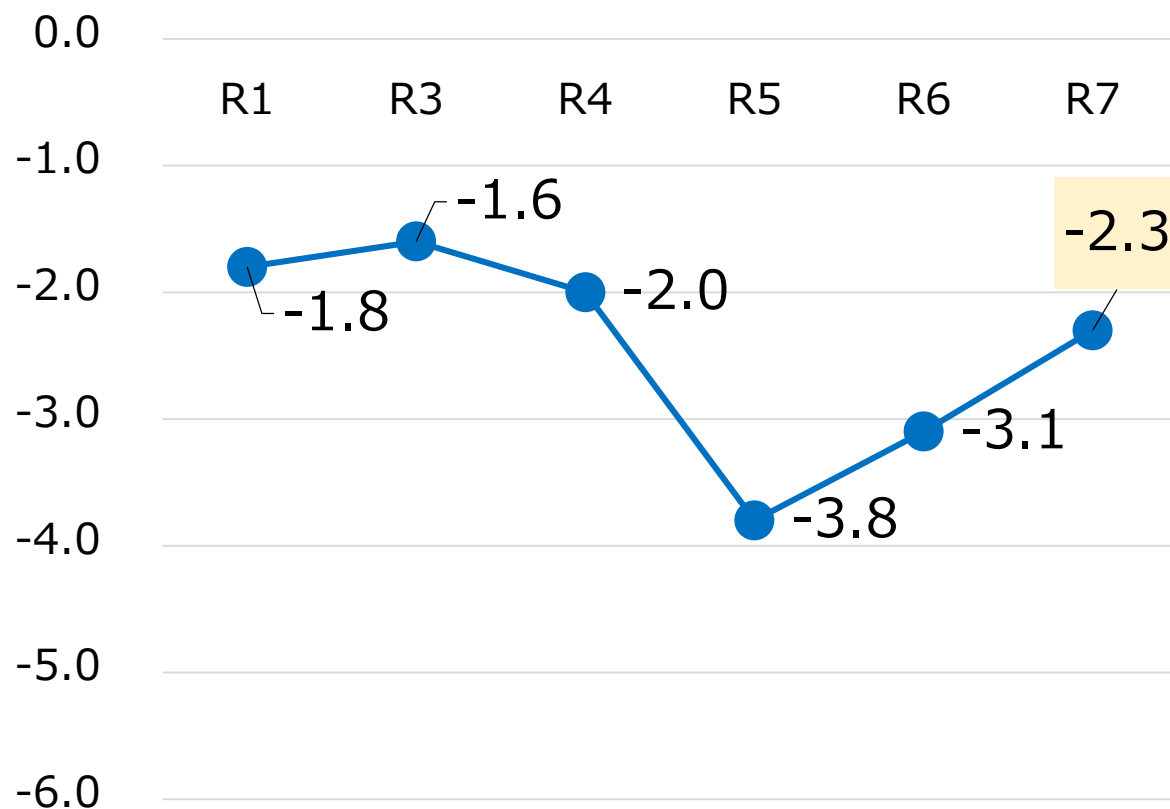


小学校 算数



全国（公立）平均正答率との差の推移

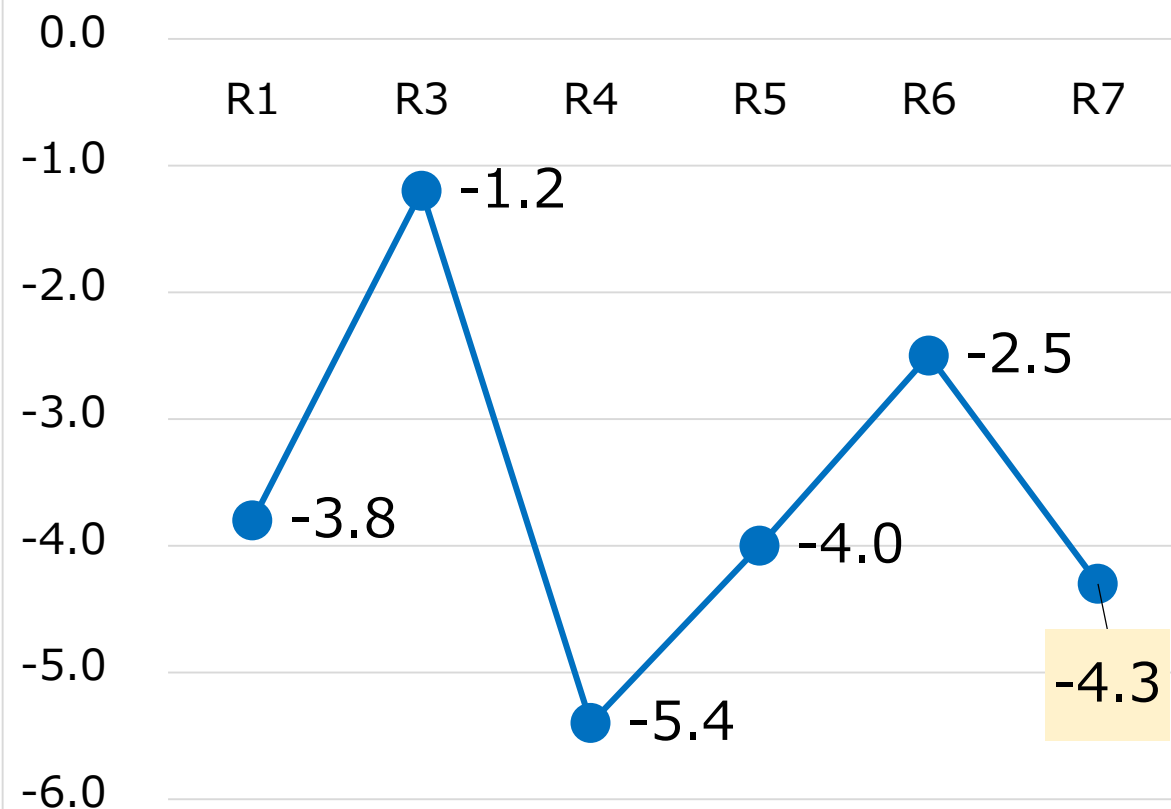
中学校 国語



全国（公立）平均との差

	R4(小6)		R7(中3)
国語	-7.6	+5.3 ➡	-2.3

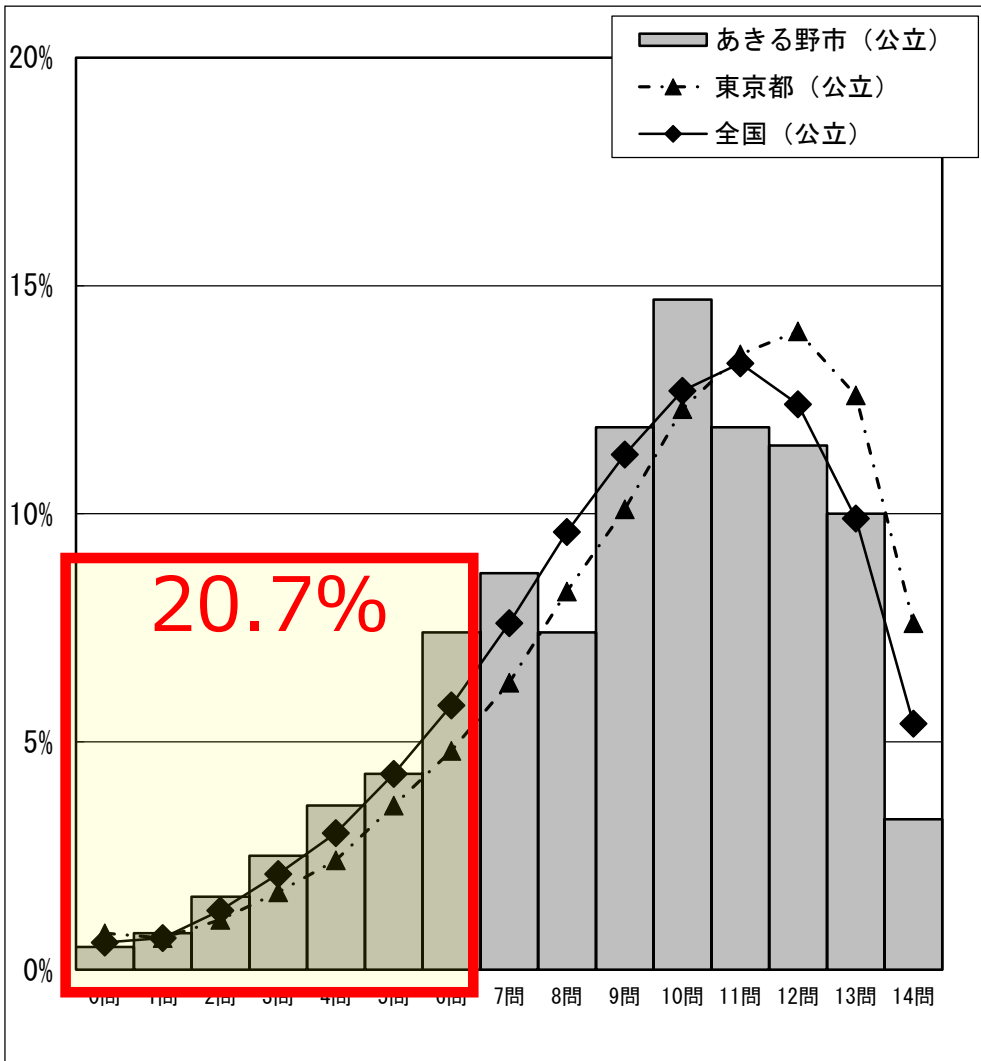
中学校 数学



全国（公立）平均との差

	R4(小6)		R7(中3)
数学	-5.2	+0.9 ➡	-4.3

「国語」に関する調査結果（正答数分布）



〈平均正答数〉

国語	平均正答数			平均正答率	
あきる野市（公立）	9.1	/	14	65	
東京都（公立）	9.8	/	14	70	-5.0
全国（公立）	9.4	/	14	66.8	-1.8

全国平均正答率との差		
R5	R6	R7
-4.2	-8.7	-1.8

令和6年度と比較して
正答率の差が6.9%縮まる
D層の割合が16.3%減少

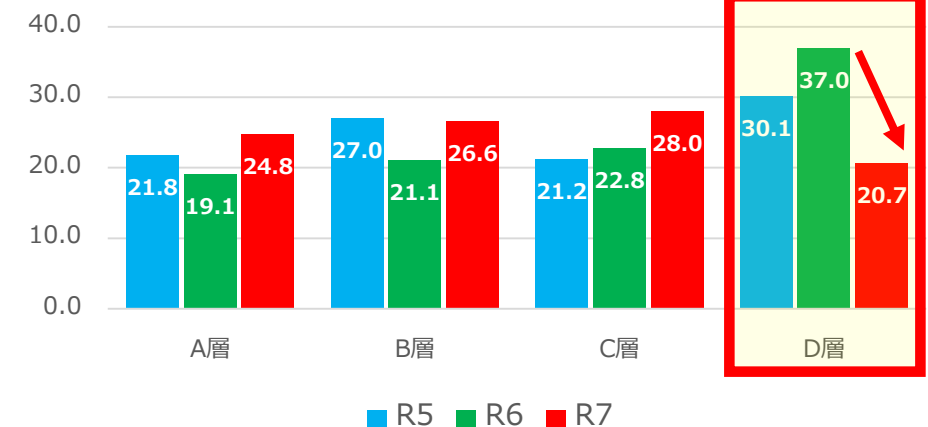
〈四分位における割合%〉

※全国（公立）の四分位による

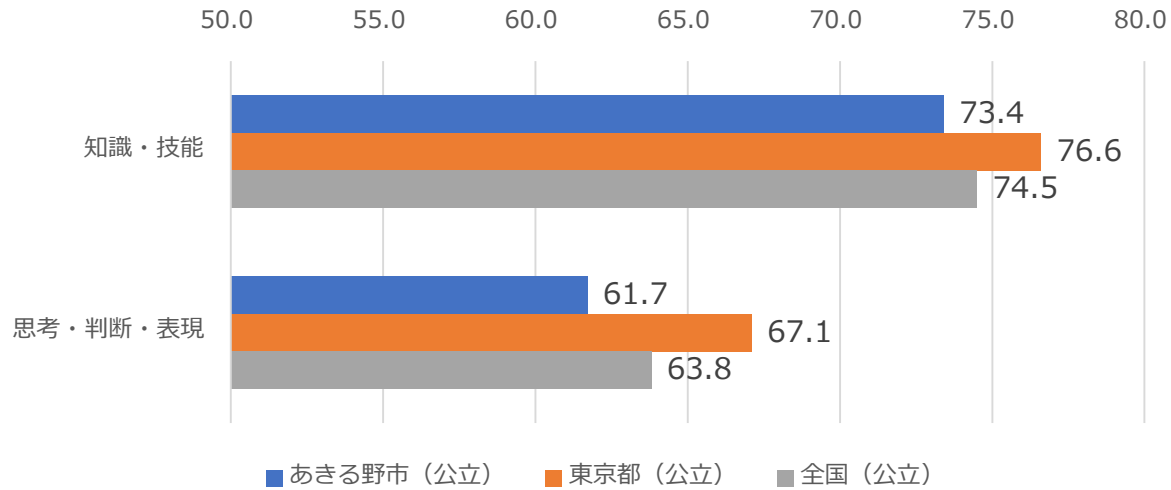
上位 ← → 下位

国語	A層 12-14問	B層 10-11問	C層 7-9問	D層 0-6問
あきる野市（公立）	24.8	26.6	28.0	20.7
東京都（公立）	34.2	25.8	24.7	15.1
全国（公立）	27.7	26.0	28.5	17.8

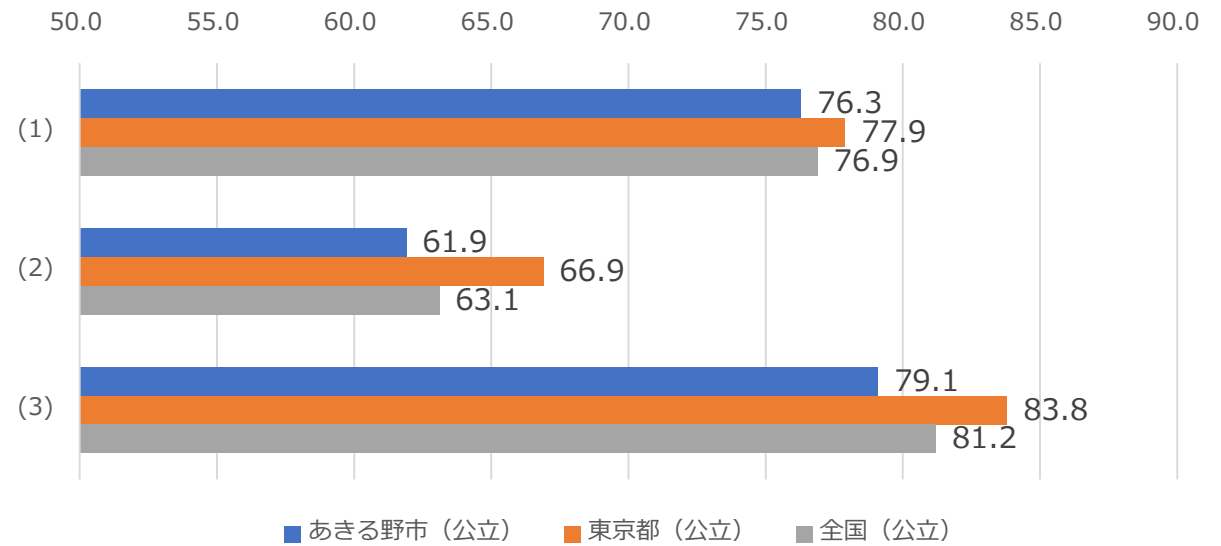
四分位における割合の変化



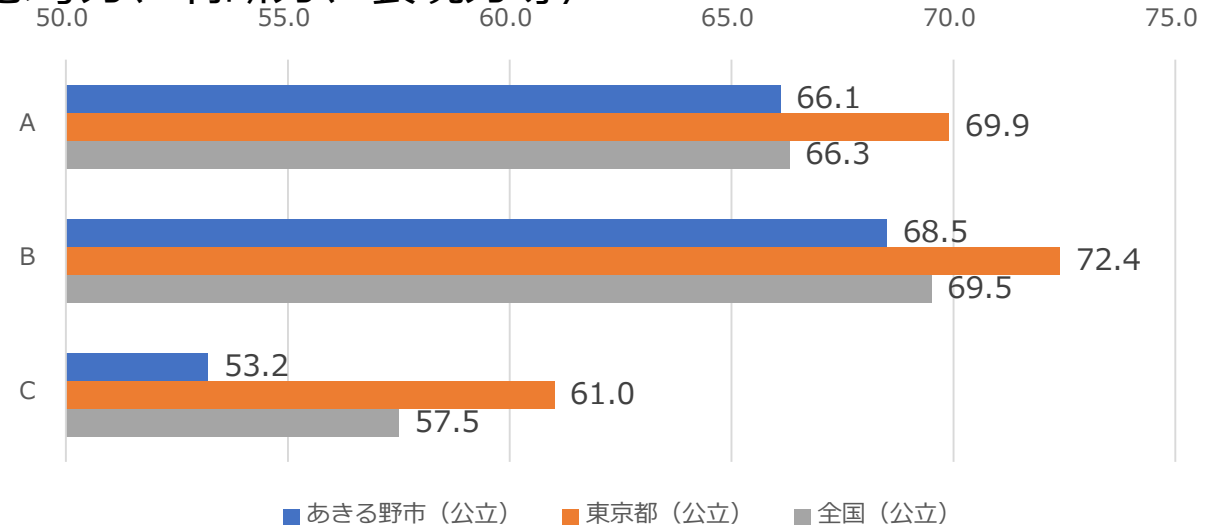
「国語」に関する調査結果（領域別の結果）



〈知識及び技能〉



〈思考力、判断力、表現力等〉



全国（公立）平均との差	R5	R6	R7
知識・技能	-2.4	-8.8	-1.1
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	-3.2	-9.7	-0.6
(2) 情報の扱い方に関する事項	-0.6	-1.0	-1.2
(3) 我が国の言語文化に関する事項	なし	-13.6	-2.1
思考・判断・表現	-5.1	-8.0	-2.1
A 話すこと・聞くこと	-7.1	-5.0	-0.2
B 書くこと	-3	-6.0	-1.0
C 読むこと	-3.7	-12.4	-4.3

「国語」課題が見られた問題の概要と指導改善のポイント

（「令和7年度全国学力・学習状況調査（報告書）」文部科学省・国立教育政策研究所）

学習指導要領の領域 「C 読むこと」

〈大問3三（1）〉 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる。
（正答率35.7%）※無回答6.5%

指導改善のポイント

必要な情報を見付けるためには、文章の要旨を捉えた上で、図表などが文章のどの部分と結び付くのかを明らかにしながら、必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることが重要である。目的に応じて必要な情報かどうかを確かめたり、情報と情報がどのような関係にあるのかを考えたりしながら読むことができるように指導すると効果的である。

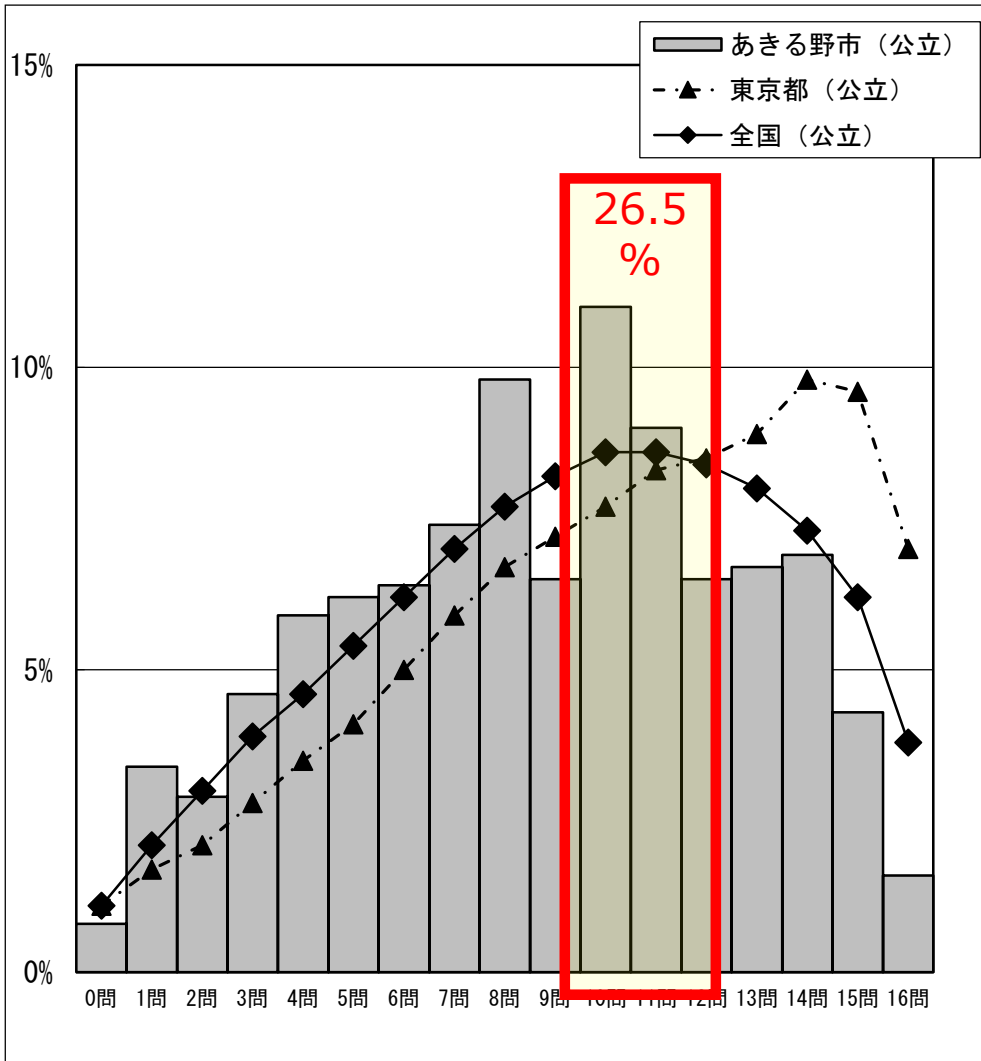
学習指導要領の領域 「C 読むこと」

〈大問3三（2）〉 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる。
（正答率49.3%）※無回答21.6%

指導改善のポイント

複数の資料を結び付けて読む学習活動を設定し、それぞれの資料がどのような関係にあるのかを考えながら読むことが重要である。その際、それぞれの資料にある、語句や情報を丸や四角で囲んだり、線などでつないだりするなどして、どの部分と結び付くのか視覚的に明らかにしながら読む指導を行うことが効果的である。

「算数」に関する調査結果（正答数分布）



〈平均正答数〉

算数	平均正答数			平均正答率	
あきる野市（公立）	8.7	/	16	54	
東京都（公立）	10.2	/	16	64	-10.0
全国（公立）	9.3	/	16	58.0	-4.0

全国平均正答率との差

R5	R6	R7
-3.5	-7.4	-4.0

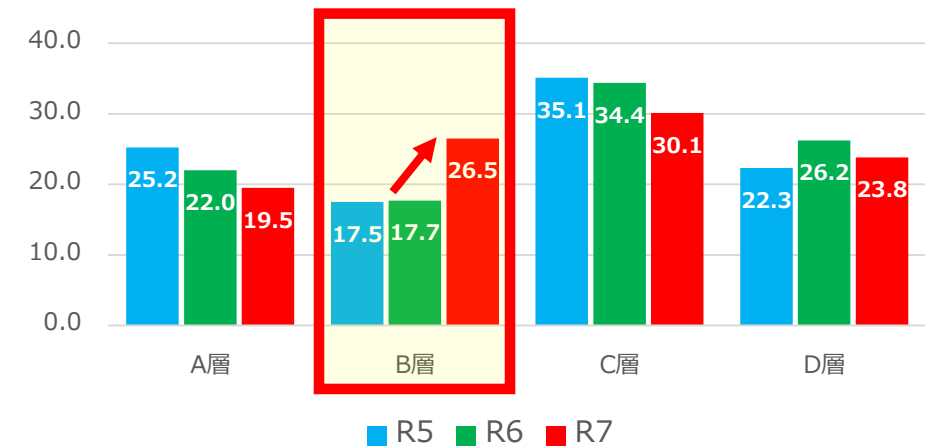
令和6年度と比較して
正答率の差が3.4%縮まる
B層の割合が8.8%増加

〈四分位における割合%〉

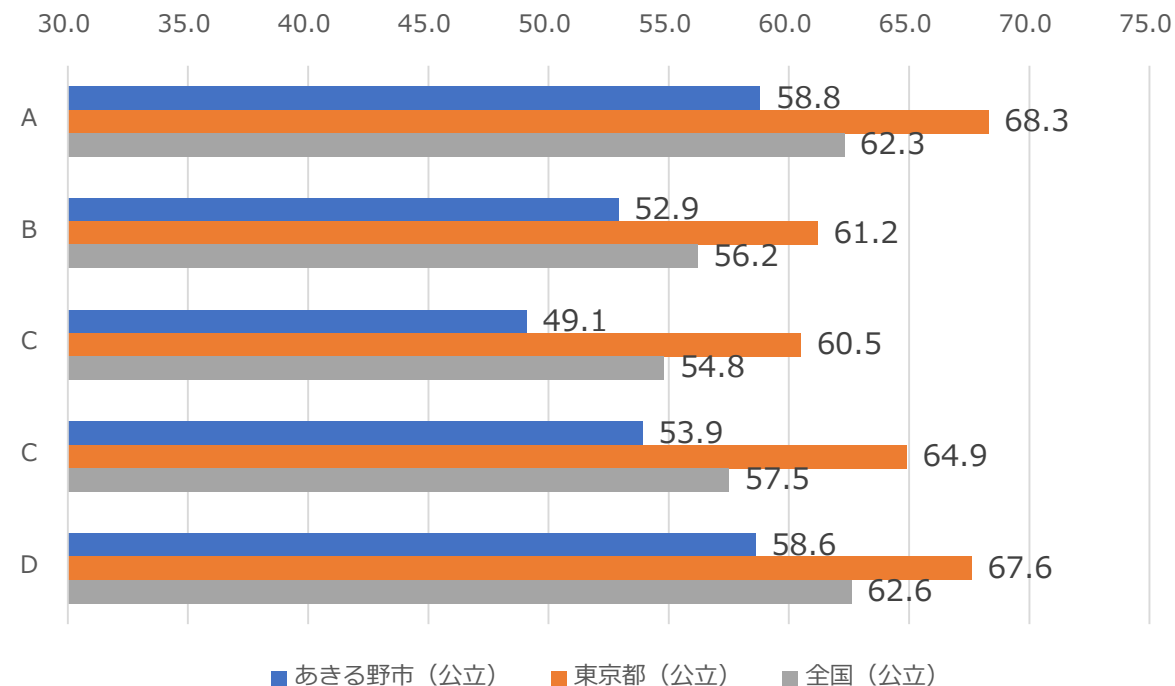
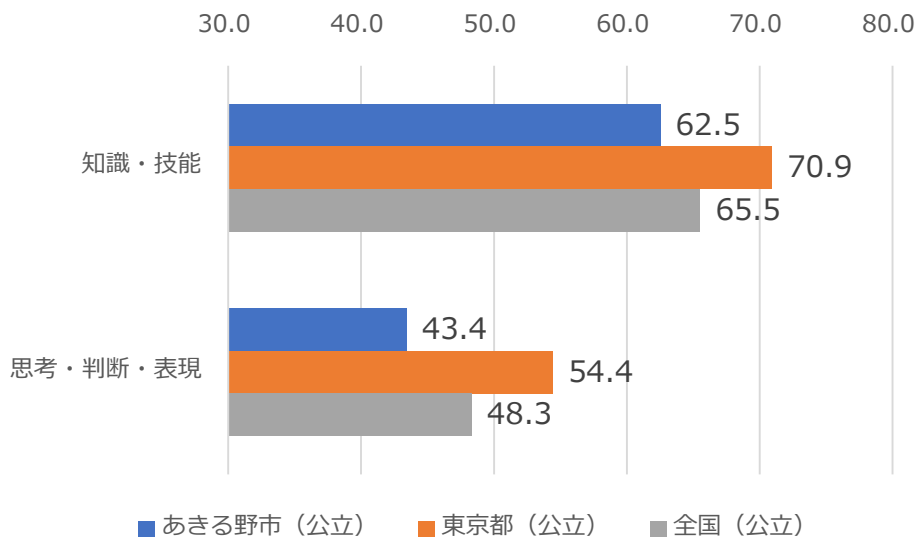
※全国（公立）の四分位による

算数	上位 ← → 下位			
	A層	B層	C層	D層
あきる野市（公立）	19.5	26.5	30.1	23.8
東京都（公立）	35.3	24.5	24.8	15.3
全国（公立）	25.3	25.6	29.1	20.1

四分位における割合の変化



「算数」に関する調査結果（領域別の結果）



全国（公立）平均との差	R5	R6	R7
知識・技能	-2.3	-6.6	-3.0
思考・判断・表現	-4.3	-8.0	-4.9

全国（公立）平均との差	R5	R6	R7
A 数と計算	-3.5	-7.6	-3.5
B 図形	-2.3	-6.6	-3.3
C 測定	なし	0.0	-5.7
C 変化と関係	-0.6	-7.2	-3.6
D データの活用	-6.6	-7.5	-4.0

「算数」課題が見られた問題の概要と指導改善のポイント

（「令和7年度全国学力・学習状況調査（報告書）」文部科学省・国立教育政策研究所）

学習指導要領の領域 「D データの活用」

〈大問1（1）〉 目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。
（正答率22.6%）※全国との差-8.4%ポイント

指導改善のポイント

様々なグラフの特徴を理解し、目的に応じて複数のグラフから適切なグラフを選択してデータの特徴や傾向を捉え判断し、その判断の理由を表現できるようにすることが重要である。その際、グラフのどの部分やどの数値に着目したのかを説明するなど、他者に分かりやすく表現できるようにすることが大切である。

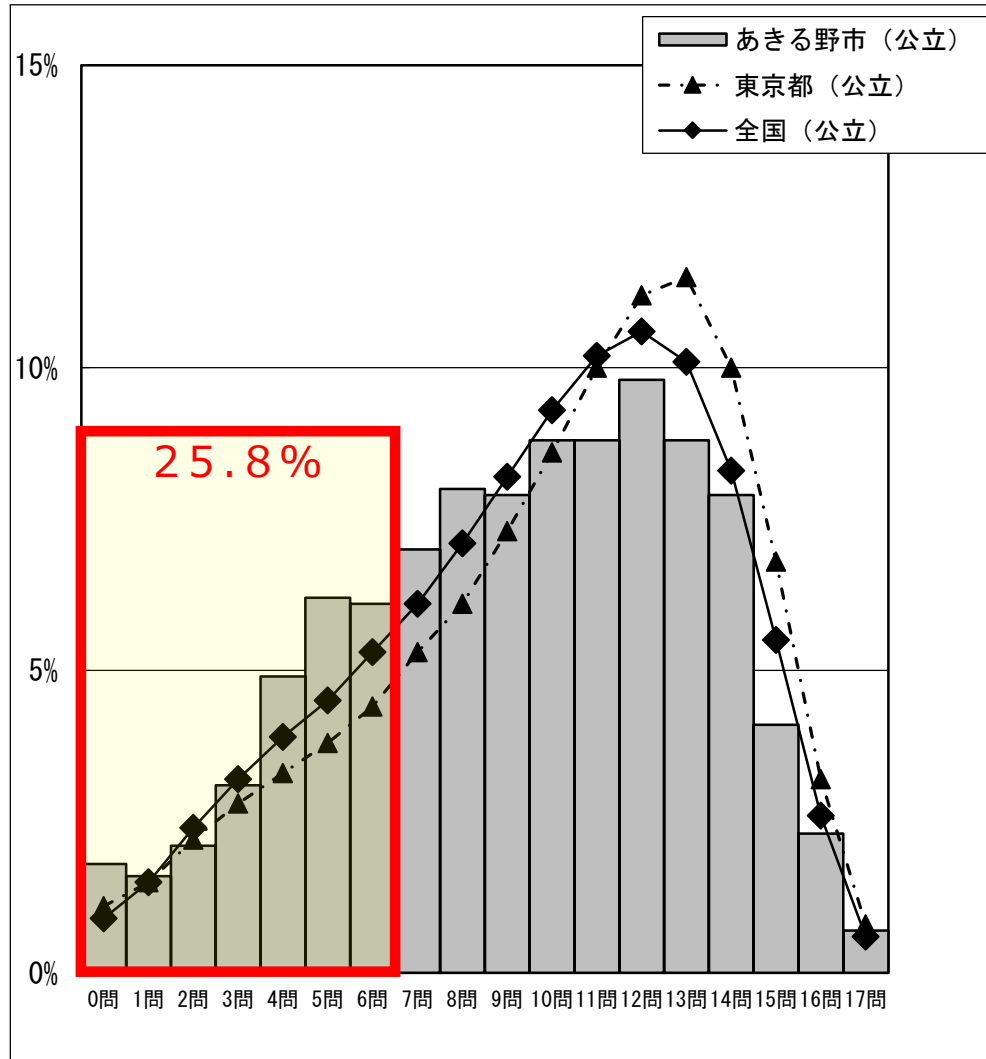
学習指導要領の領域 「A 数と計算」

〈大問3（2）〉 分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。（正答率16.5%）※無回答18.7%

指導改善のポイント

分数の加法について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目して、共通する単位分数を見出すことで、既習の整数の加法に帰着できるようにすることが重要である。

「理科」に関する調査結果（正答数分布）



〈平均正答数〉

理科	平均正答数			平均正答率	
あきる野市（公立）	9.2	/	17	54	
東京都（公立）	10.1	/	17	60	-6.0
全国（公立）	9.7	/	17	57.1	-3.1

全国平均正答率との差

R4	R7
-3.3	-3.1

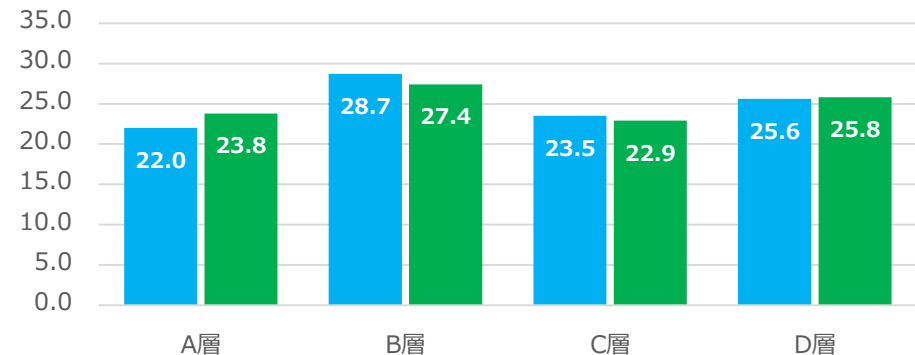
令和4年度と比較して
大きな差は見られない
D層の割合に課題

〈四分位における割合%〉

※全国（公立）の四分位による

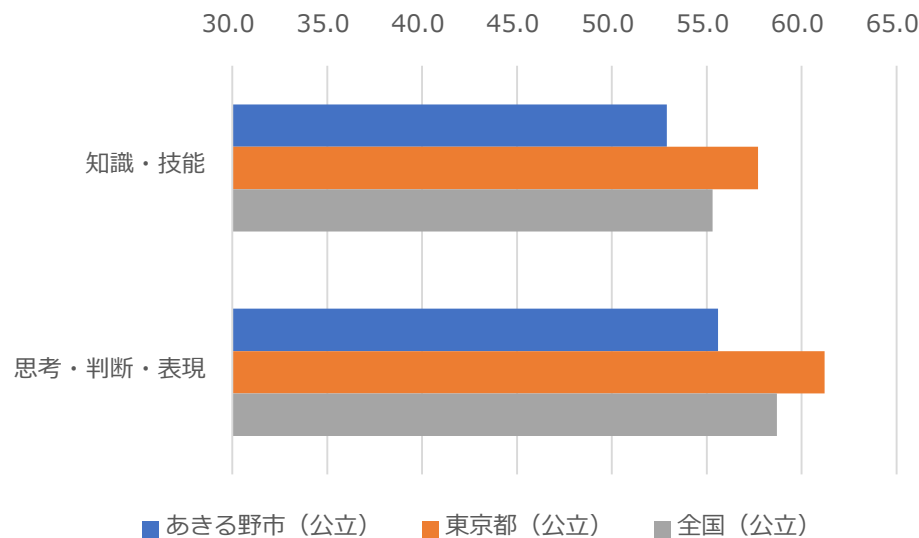
理科	上位 ← → 下位			
	A層 13-17問	B層 10-12問	C層 7-9問	D層 0-6問
あきる野市（公立）	23.8	27.4	22.9	25.8
東京都（公立）	32.3	29.8	18.7	19.1
全国（公立）	27.1	30.1	21.4	21.7

四分位における割合の変化

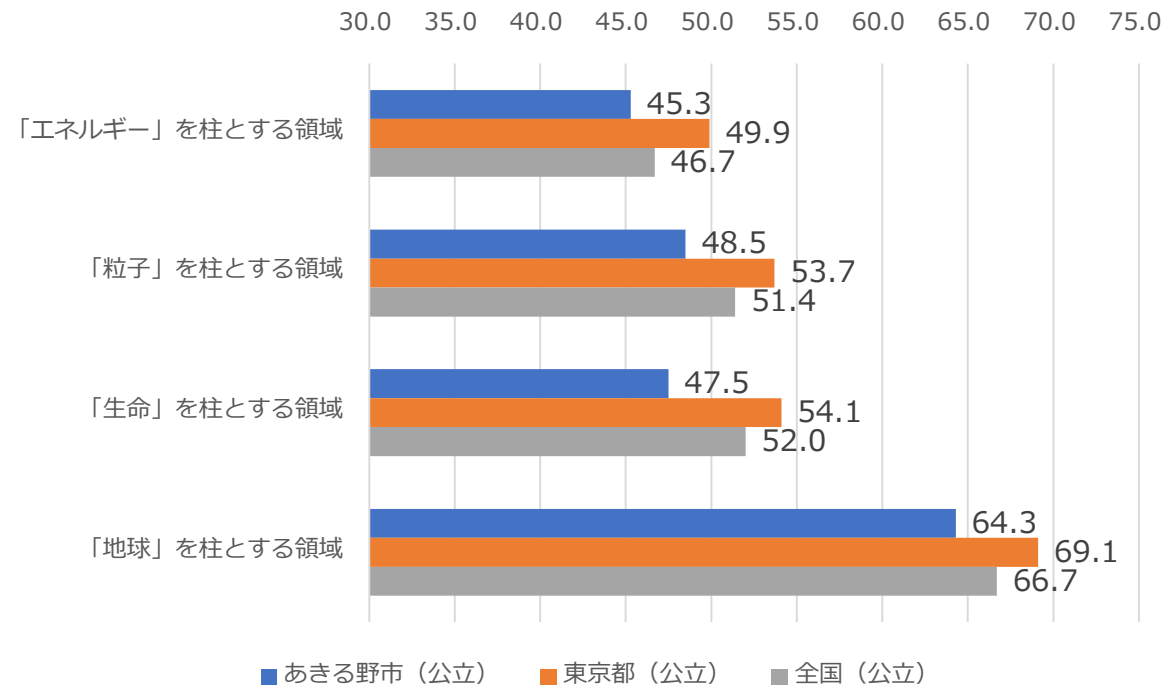


■ R4 ■ R7

「理科」に関する調査結果（領域別の結果）



全国（公立）平均との差	R7
知識・技能	-2.4
思考・判断・表現	-3.1



全国（公立）平均との差	R7
「エネルギー」を柱とする領域	-1.4
「粒子」を柱とする領域	-2.9
「生命」を柱とする領域	-4.5
「地球」を柱とする領域	-2.4

「理科」課題が見られた問題の概要と指導改善のポイント

(「令和7年度全国学力・学習状況調査(報告書)」文部科学省・国立教育政策研究所)

学習指導要領の領域 「生命」を柱とする領域

〈大問3 (3)〉発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる。
(正答率53.0%) ※全国との差-9.0%ポイント

指導改善のポイント

予想や仮説を基に、実験に関する全ての条件を明確にした上で、どの条件を変える必要があるかを検討したり、他の条件は全て同じになっているかを確認したりすることが大切である。

学習指導要領の領域 「生命」を柱とする領域

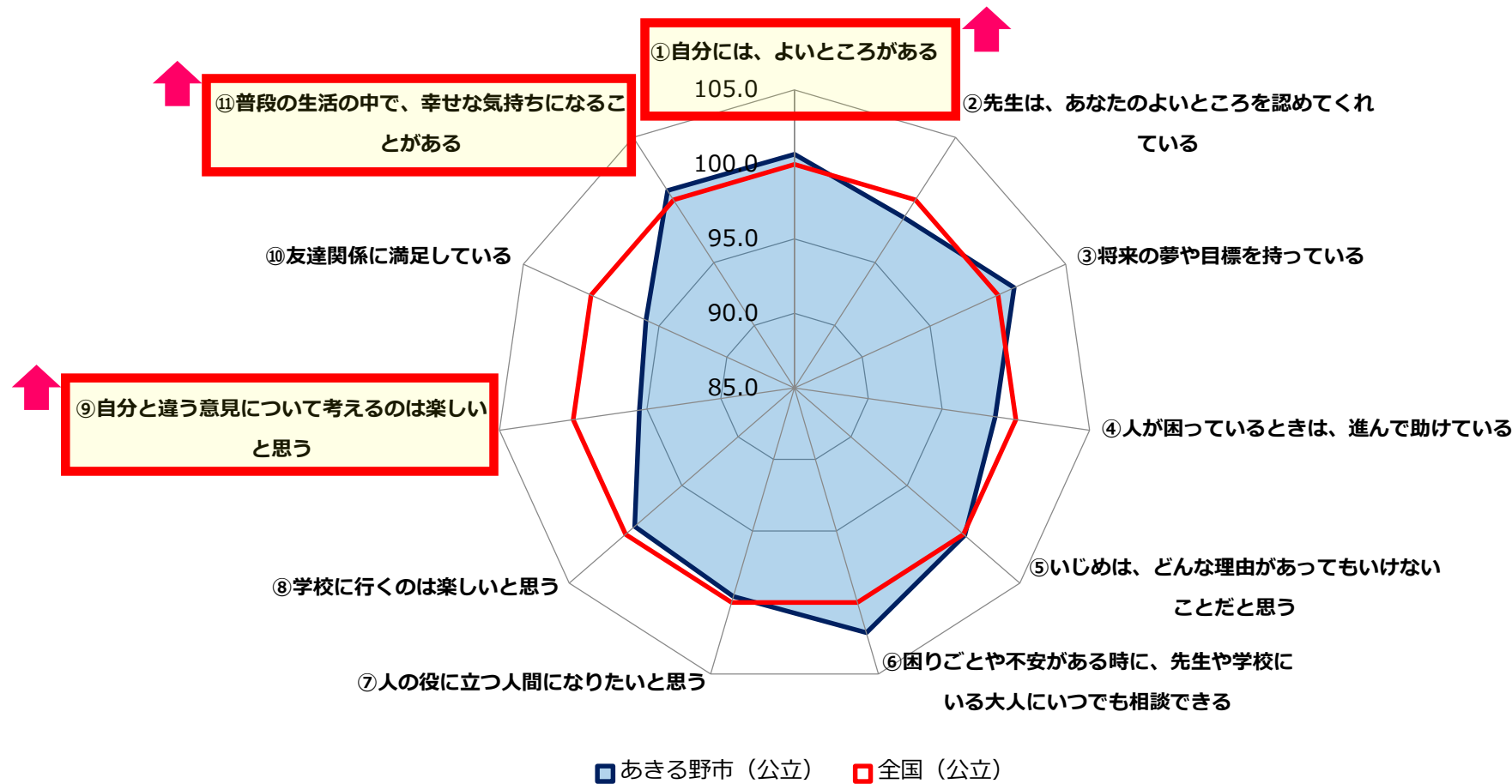
〈大問3 (4)〉レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる。
(正答率28.6%) ※無回答16.0%

指導改善のポイント

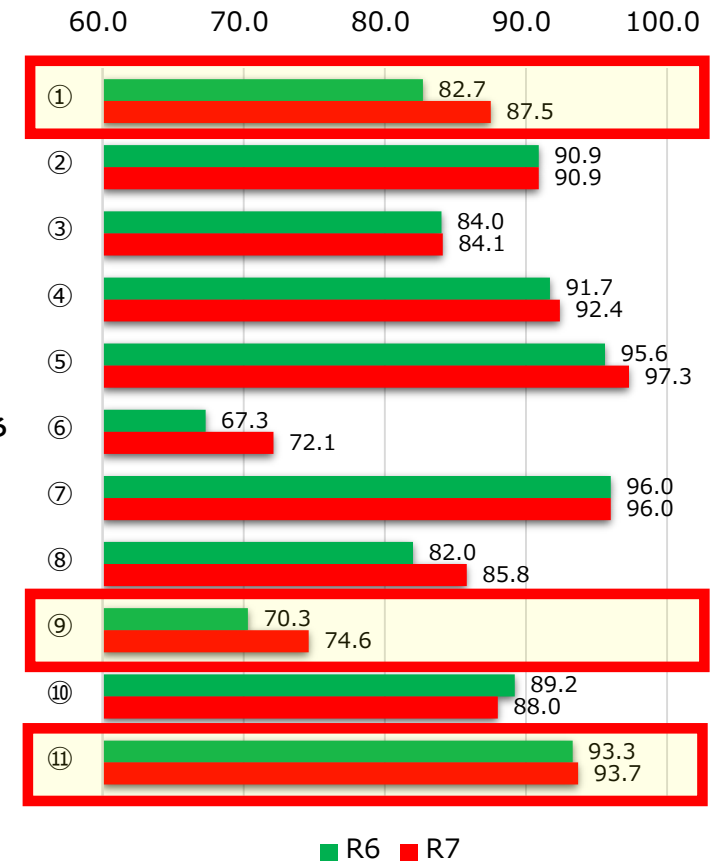
観察、実験の結果を比較して、差異点や共通点を基に、具体的な条件に着目した問題を見いだす場面を設定することが考えられる。

挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等

○肯定的な回答（当てはまる、どちらかといえば、当てはまる）と回答した児童の割合〈全国（公立）を100としたときの割合〉



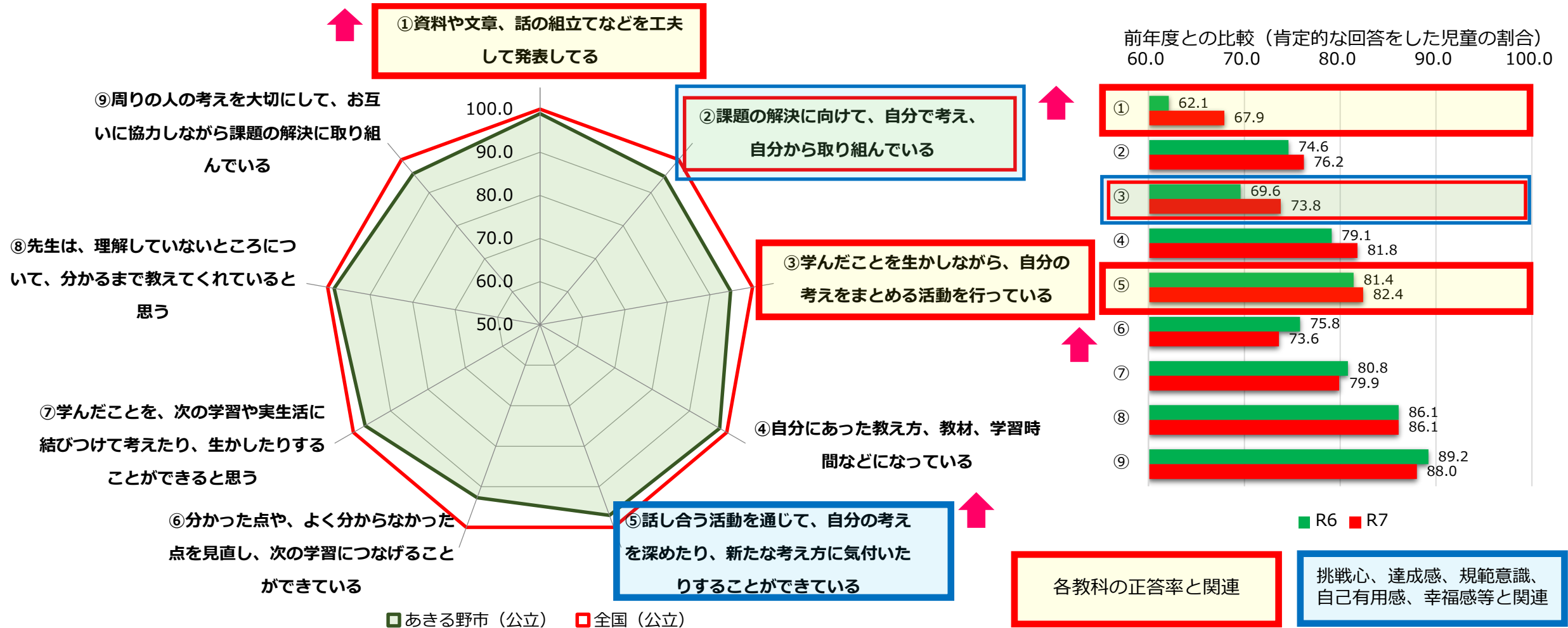
前年度との比較（肯定的な回答をした児童の割合）



○児童の主体的・対話的で深い学びに関する回答と児童のウェルビーイングに関する回答との間には相関が見られる。主体的・対話的で深い学びが、児童のウェルビーイングに影響を与えている可能性がある。

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

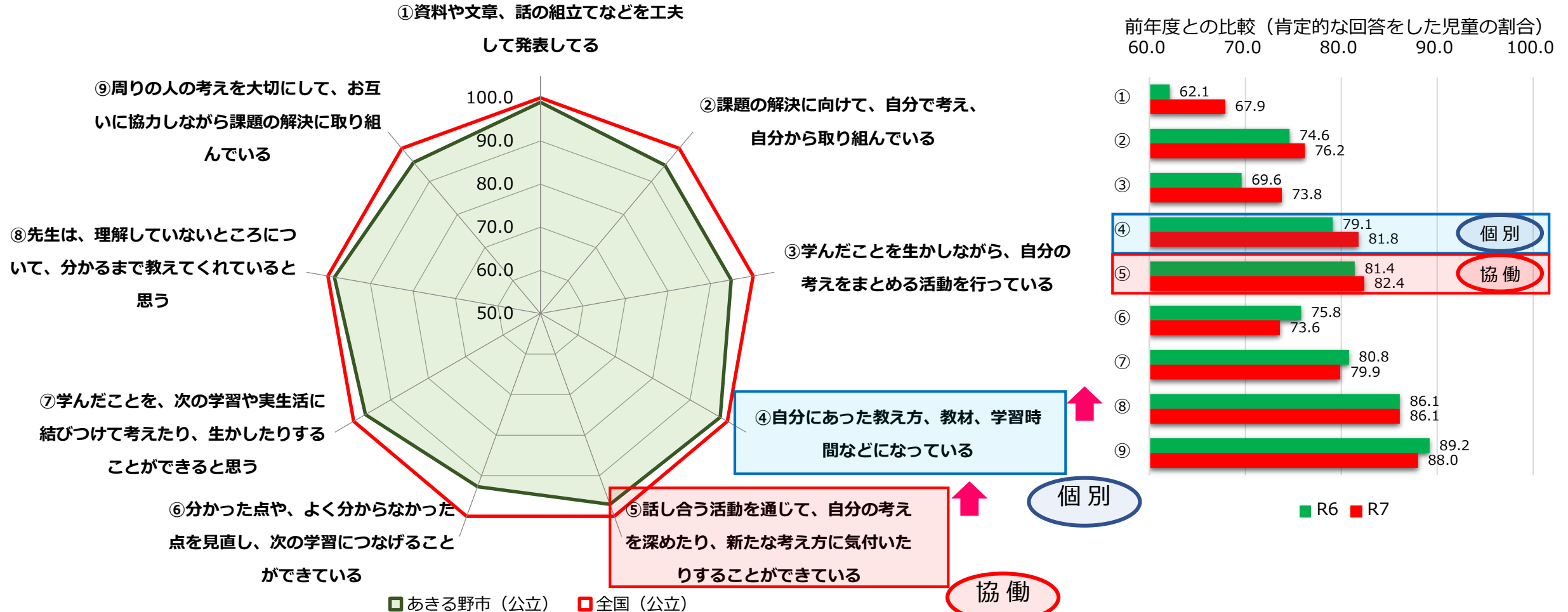
○肯定的な回答（当てはまる、どちらかといえば、当てはまる）と回答した児童の割合〈全国（公立）を100としたときの割合〉



○主体的・対話的で深い学びに取り組んだと考える児童ほど、各教科の正答率が高く、自分で学び方を考え工夫している。

個別最適な学び・協働的な学び

○肯定的な回答（当てはまる、どちらかといえば、当てはまる）と回答した児童の割合〈全国（公立）を100としたときの割合〉

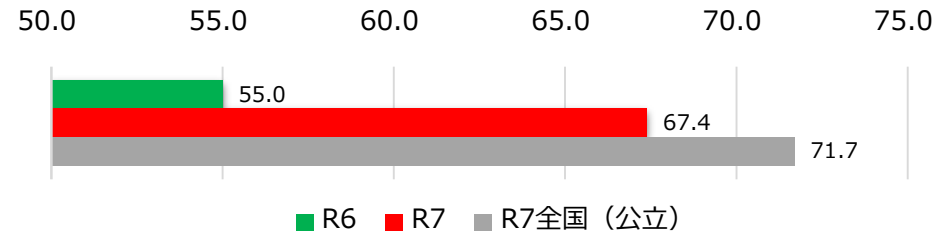


○個別最適な学び・協働的な学びの両方に取り組んだと考えている児童は、正答率が高い傾向が見られるとともに、「学校に行くのは楽しい」「自分にはよいところがあると思う」と回答している傾向が見られる。

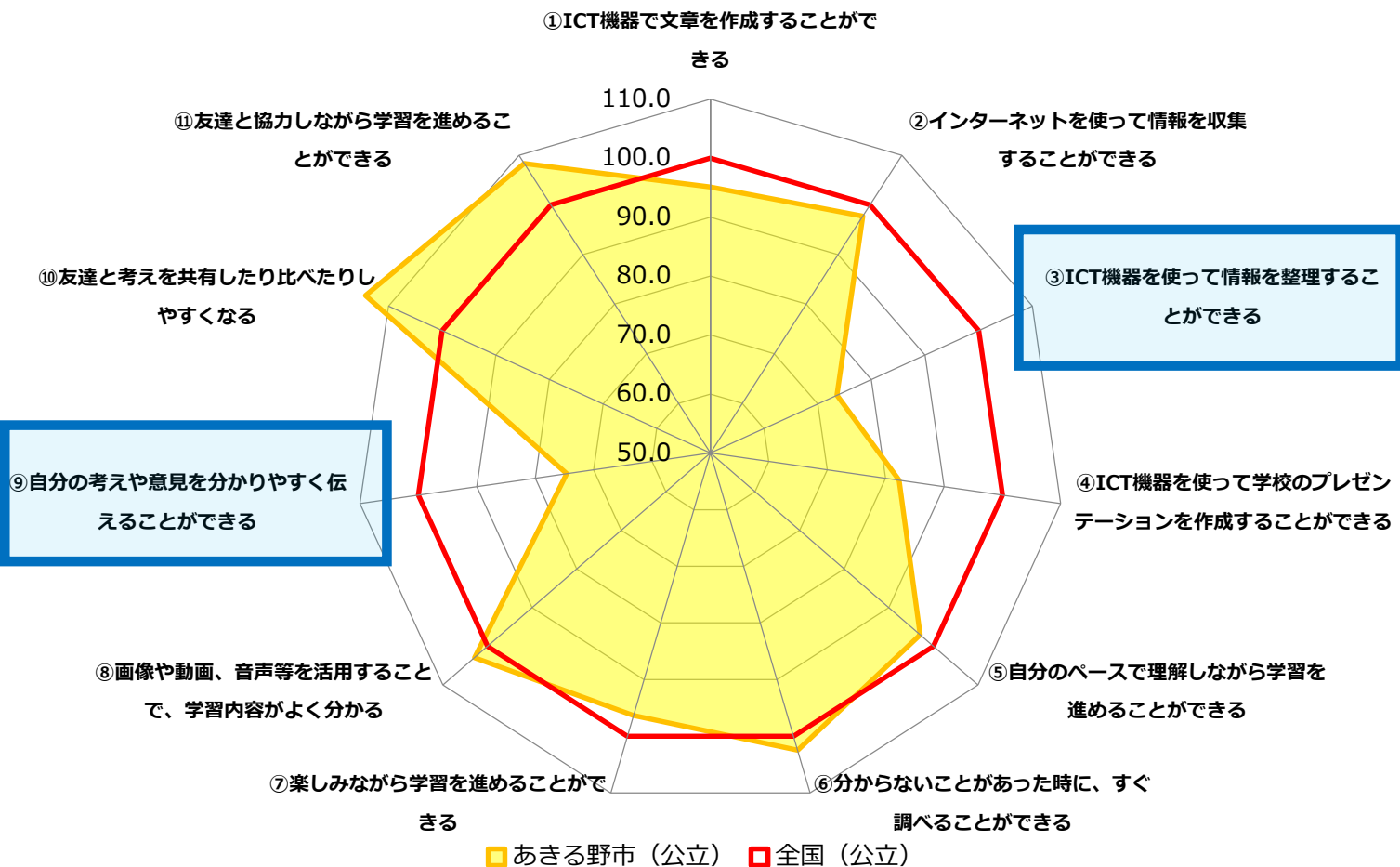
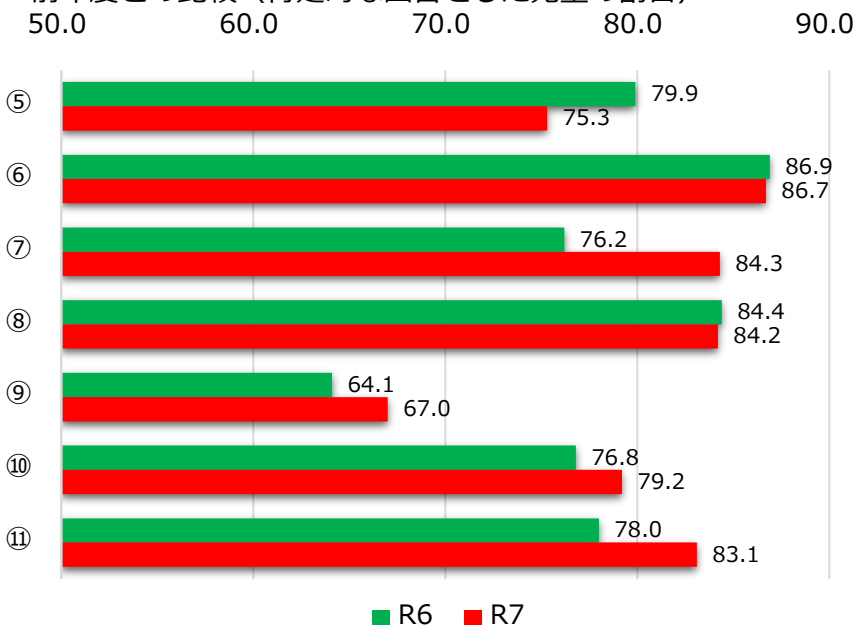
ICTを活用した学習状況

○肯定的な回答（とてもそう思う、そう思う）と回答した児童の割合〈全国（公立）を100としたときの割合〉

5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、
「ほぼ毎日」「週3回以上」使用していると回答した児童の割合



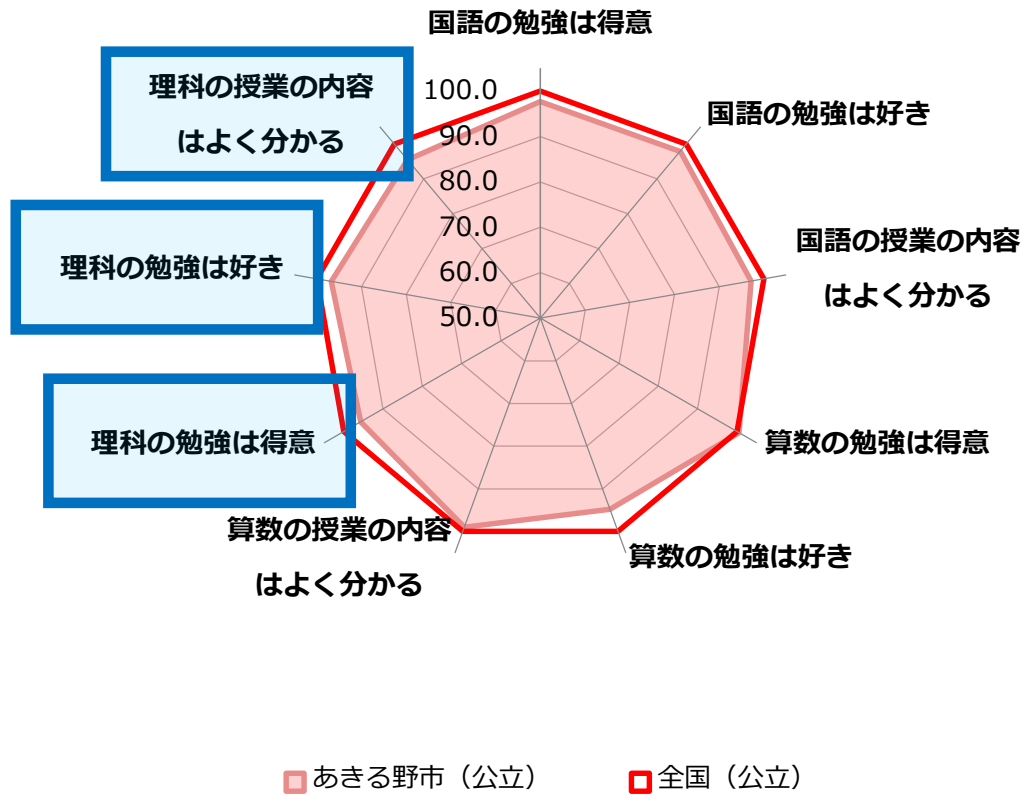
前年度との比較（肯定的な回答をした児童の割合）



- ICT機器を活用する自信がある児童ほど、探究的な学びに取り組んだと回答している傾向が見られる。
- ICT機器を活用する自信がある児童ほど、各教科で自分の考えを工夫してまとめたり発表したりする活動に取り組んでいた傾向が見られる。

各教科への興味・関心、理解度

○肯定的な回答（当てはまる、どちらかといえば、当てはまる）と回答した児童の割合〈全国（公立）を100としたときの割合〉



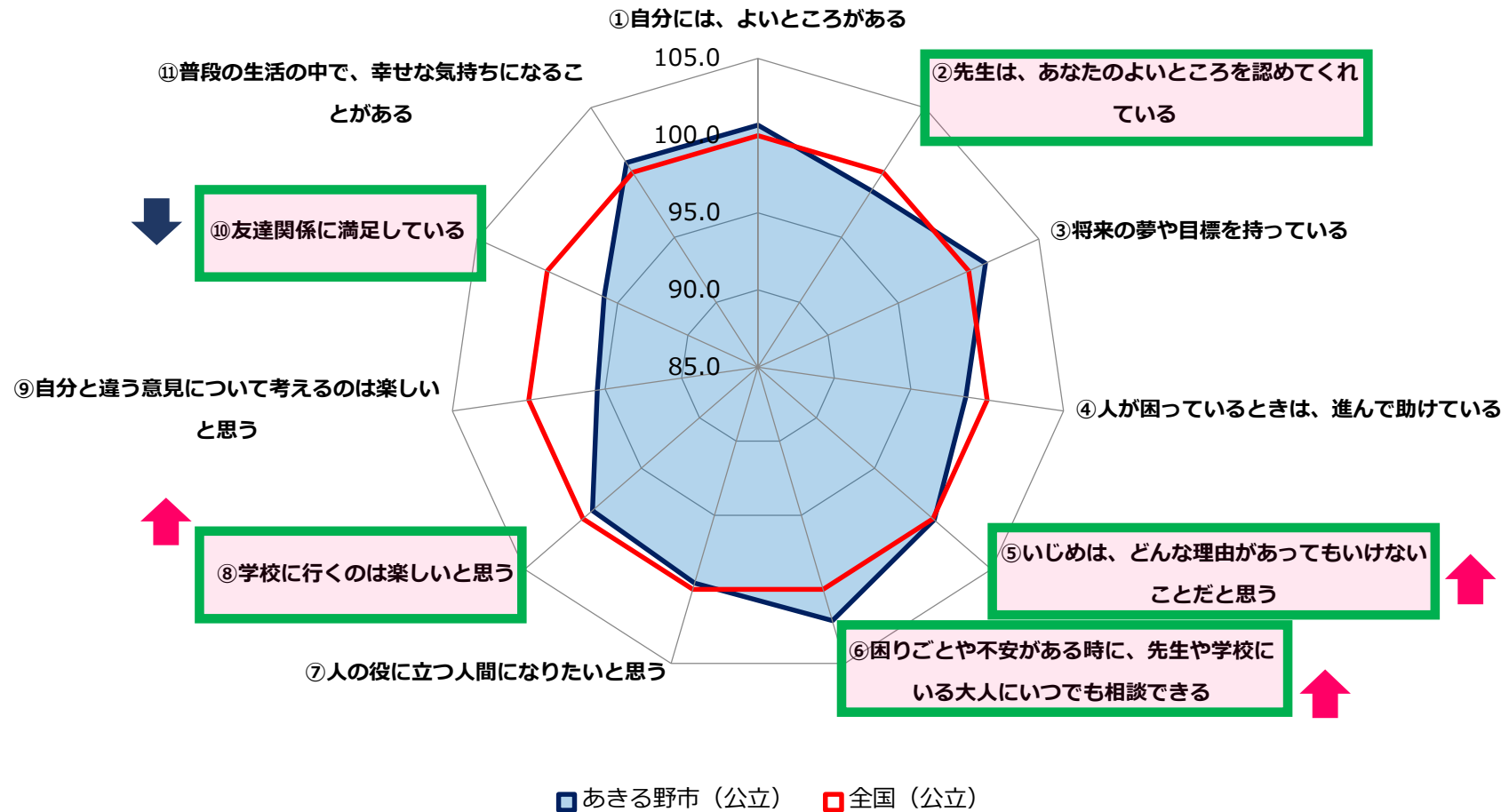
〈大問3三（1）〉
（正答率35.7%）

〈大問1（1）〉
（正答率22.6%）

〈大問3（2）〉
（正答率16.5%）

挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等

○肯定的な回答（当てはまる、どちらかといえば、当てはまる）と回答した児童の割合〈全国（公立）を100としたときの割合〉



前年度との比較（肯定的な回答をした児童の割合）



○「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に肯定的な回答をする児童の割合
令和8年度目標値100% あきる野市教育基本計画（第3次計画）

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果報告 小学校